

平成20年度 法人会計予算の概要

事務局長 中野 拓美

平成20年3月19日の評議員会及び理事会において平成20年度事業計画が決定され、またそれに基づいた平成20年度予算が承認されましたので、資金収支予算書及び消費収支予算書の総括表を示し、その概略を説明させていただきます。

I. 資金収支予算（表1）

1. 資金収入予算

- （1）学生納付金収入については、学部学生授業料は全学年を前年度と同額で積算し、また、4年次生については、今年度も前年度と同額の「病院・薬局実習」実習費を組込みましたが、学生現員数が前年度より増加するため、大学院生分等も含め、前年度より66百万円増の2,365百万円と見込まれました。
- （2）手数料収入については、学部入学検定料が前年度とほぼ同額と予想されるため、その他手数料と合わせて、前年度比同額の79百万円と見込まれました。
- （3）寄付金収入については、一般寄付としての桔梗育友会及び同窓会からのご寄付のほか、企業等からの奨学寄付の申込を見込み、合わせて前年度比同額の25百万円とされました。
- （4）補助金収入については、経常費補助金やその他の補助金等を見込み、前年度を多少下回る273百万円とされました。
- （5）資産運用収入については、期中に運用資金の取崩しもあって、運用残高も減るが、運用利回りを年1.4%程度と想定した結果、前年度比同額の101百万円と見込まれました。
- （6）事業収入については、補助活動収入（寮費収入等）と企業等からの受託事業収入とを合わせ前年度比同額の35百万円とされました。
- （7）雑収入は、私立大学退職金財団交付金ほかで、78百万円と見込まれました。
- （8）前受金収入は、学部入学定員270人を前提に21年度入学手続者分等として422百万円と見込まれました。
- （9）その他資金関係では、今年度予定されている3・4号館耐震補強・改修のための支払などのため、減価償却引当資金から計600百万円の取崩しが予定されており、これを含めたその他の収入は691百万円と見込まれました。

2. 資金支出予算

- （1）人件費支出については、教育職員と事務職員に例年通り若干の補充枠を見込み、非常勤教員等の給与や定年者退職金等を合わせ、1,577百万円が計上されました。
- （2）教育研究経費支出については、通常支出に加え、学部実習費や教育設備費の増加や6年制対応関係費の計上などから、前年度比28百万円増の816百万円とされました。
- （3）管理経費支出については、通常支出のほか派遣業務費や広告費や学生寮関係費等の増額計上から18百万円増加し、211百万円とされました。
- （4）借入金利息支出については、日本私立学校振興・共済事業団の借入金利息として16百万円が、また、借入金返済支出については、同じく同振興・共済事業団への約定返済を中心に、48百万円がそれぞれ計上されました。
- （5）施設関係支出については、3・4号館耐震補強・改修や学生支援センター設置、キャンパス改修ほかで、合計721百万円が計上されました。
- （6）設備関係支出については、学生メールサーバ更新や実習用顕微鏡・電子天秤の購入、学内防犯設備対策、研究用・実習用機器費、図書費ほかで、合計112百万円が計上されました。
- （7）資産運用支出については、減価償却引当資金や、第2号基本金引当資金のうち教育環境整備引当資金や施設設備整備引当資金への積立等を行うこととし、前年度比100百万円増の470百万円が計上されました。

3. 次年度繰越支払資金

以上の収支のほか、資金調整勘定等の差引を加味した次年度繰越支払資金は499百万円と前受金422百万円を上回り、資金収支予算上の安全性は確保されています。

II. 消費収支予算（表2）

消費収支については、資金収支の内容を基に、帰属収入から839百万円を基本金へ控除組入れし、支出には減価償却費を加算した結果、当年度の収支は前年度予算に引き続き933百万円の支出超過と見込まれました。このため予算執行に際しては、改めて支出の見直しの強化などにより、引き続き収支の改善に努力していく所存でありますので、なにとぞよろしくご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。